

第9回 武蔵野美術大学建築学科 長尾重武賞

応募資格 武蔵野美術大学建築学科同窓会日月会正会員
(個人・グループ応募も可)

応募方法 応募締切：2024年11月11日(月)必着
以下2点を合わせ、宅配便にて下記の審査事務局へ
お送り下さい(メール便、ゆうパックはご遠慮下さい)。
・応募申込書：建築学科のホームページから書式を
ダウンロードし、A4サイズにプリントアウト、必
要項目を記入。
・作品資料：A3サイズ2枚(横使い、パネル不可)
研究の場合は紀要、書籍、学術掲載誌等を同封して下さ
い。その他、応募作品の理解に参考になる資料があれば、
適宜同封して下さい(応募資料は返却いたしません)。

賞の対象 武蔵野美術大学建築学科で学んだ知見をもとにした
建築作品・研究・活動の中から、オリジナリティ・
社会性に溢れるものに与えられます(実作に限らず、
コンペやプロポーザル、計画案なども可)。
組織に属して制作した作品などについては、所属長
の了解を得て下さい。

送付先 武蔵野美術大学建築学科研究室
「武蔵野美術大学建築学科 長尾重武賞」審査事務局
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 8号館3階

tel: 042-342-6067 mail: arc@musabi.ac.jp
http://www.arc.musabi.ac.jp
担当：平川

表彰
「武蔵野美術大学建築学科 長尾重武賞」賞状、賞金
(30万円)を授与。1点を原則とします。
審査委員：長尾重武(武蔵野美術大学名誉教授)
賞の発表：2024年12月上旬、ホームページに掲載し、
本人と日月会および校友会に直接通知します。展示・
表彰式は2025年1月18日(土)に武蔵野美術大学



日月会



武蔵野美術大学建築学科同窓会

主催 武蔵野美術大学建築学科

共催 武蔵野美術大学建築学科同窓会 日月会

後援 武蔵野美術大学校友会

第9回 武蔵野美術大学建築学科

長尾重武賞

「武蔵野美術大学建築学科 長尾重武賞」は、武蔵野美術大学建築学科で長年にわたって教鞭をとられ、その間に武蔵野美術大学学長に就任されるなど、建築学科にとらわれない活動をされてきた長尾重武先生の功績を称え、ご自身の選定により授与される賞です。広く各地で活躍されている日月会正会員の参加を期待します。

第8回の受賞作品

「居心地のよい居場所（カフェ+若者支援施設）」
およびこれまで提出された一連の住宅作品のうち、ここ3年分
鈴木竜太・田中医美



写真：浅川敏

趣意

武蔵野美術大学造形学部建築学科及び日月会は、2004年度から2013年度まで武蔵野美術大学卒業生及び同大学院修了生を対象に、優れた創造的環境形成に寄与した建築などの作品に対して、芦原義信先生を記念する賞として「武蔵野美術大学建築学科 芦原義信賞」を、また2004年度より2015年度まで武蔵野美術大学建築学科卒業生及び同大学院建築コース修了生の優れた建築作品に対して竹山実先生を審査委員とする「武蔵野美術大学建築学科 竹山実賞」を授与してきました。日月会会員から将来の可能性のある受賞者を世に送りつづけるために、2016年度からは長尾重武先生を審査委員に迎え「武蔵野美術大学建築学科 長尾重武賞」として賞を継続いたします。長尾重武先生は、1988年から長年にわたって武蔵野美術大学建築学科で教鞭をとられ、2015年に退任、名誉教授になりました。2001年度から2006年度には武蔵野美術大学学長も務められるなど、大学における長尾重武先生の功績は建築学科にとらわれない広汎なものです。先生ご自身の選定により授与される「武蔵野美術大学建築学科 長尾重武賞」は、研究者でもある先生の幅広い活動に応じて、対象作品は建築作品にとどまらず研究・活動へと範囲を拡大します。対象者は卒業生に限定せず、武蔵野美術大学建築学科同窓会日月会正会員とします。皆様のご応募を広くお待ちしております。

武蔵野美術大学建築学科主任 小西 泰孝

武蔵野美術大学建築学科同窓会日月会会長 小津 誠一

武蔵野美術大学校友会会長 萩原 幸也



長尾 重武 Shigetake NAGAO

武蔵野美術大学名誉教授



1944年東京都生まれ。1967年東京大学工学部卒業。1972年同大学院博士課程単位取得満期退学。1972-83年東京大学助手。1977-78年イタリア政府給費留学生としてローマ大学に留学。1983年工学博士（東京大学）。1983-88年東北工業大学助教授。1988-89年武蔵野美術大学造形学部建築学科助教授。1989-2015年同教授。専門は建築・都市の歴史・意匠論。

住宅作品：「国分寺の家」（1976年、国分寺）、「天日向家船」（1996年、国分寺）。展示作品：「レオナルドの素描に基づく模型6体」（1989年、名古屋デザイン博覧会）。展覧会監修：「知られざる科学者レオナルド・ダ・ヴィンチ展」（1998年、東京・大阪）、「ダ・ヴィンチとルネサンスの発明家たち展」（2001年、日本未来館）。著書：『ミケランジェロのローマ』（1988年、丸善）、『ローマ・バロックの劇場都市』（1993年、丸善）、『建築家レオナルド・ダ・ヴィンチ』（1994年、中公新書）、『ローマ イメージの中の永遠の都』（1997年、筑摩書房）、『祈りの都 ヴァチカン』（2002年、朝日新聞社）、『ピラネージ《牢獄》論—描かれた幻想の迷宮』（2015年、中央公論美術出版）。詩作：1999年より詩作を再開、2002年より『同時代』同人。詩集『きみといた朝』（2000年）、『小さな樂園』（2006年、ともに思潮社）。小句集『四季・四時』（2002年）、小詩集『愛にかんする季節のソネット』（2002年、ともにスタジオ・レオナルド）。『小さな家の思想 方丈記を建築で読み解く』（2022年、文春新書）。つれづれ日記-五輪の巻-(2022年、鳥影社)。